岡山大学
OKAYAMA UNIV.

文部科学省委託事業

総合的な教師力向上のための調査研究事業
（教育課題に対応するための教員養成カリキュラム開発）

実践的指導力の養成に資する「教師力養成演習」の開発

報　告　書

平成 27 年 3 月

岡山大学教育学部
岡山大学教師教育開発センター

目次

1.　本調査研究の概要 1
1.1.　課題認識 1
1.2.　現状の取組 2
1.3.　調査研究の目的 3
1.4.　調査研究の具体的な内容・取組方法 3
1.5.　調査研究の実施体制 4
2.　アンケート調査の集計・分析 5
2.1.　今年度の教師力養成講座の開催状況 5
2.2.　アンケートについて（参加者の情報） 5
2.3.　アンケートについて（講座内容） 6
2.4.　アンケートについて（センター企画講座） 9
2.5.　アンケートについて（教師力養成講座の授業化（単位化）（第1回から第4回）） 10
2.6.　アンケートについて（教師力養成講座の授業化（継続）（第5回から第7回）） 13
2.7.　アンケート調査まとめ 15
2.8.　参考：アンケート質問用紙、自由記述（抜粋） 16
3.　訪問調査の取りまとめ 27
3.1.　山口大学 27
3.2.　山口県教育委員会 31
3.3.　東京学芸大学 38
3.4.　三鷹市教育委員会 42
3.5.　鹿児島大学 47
4.　まとめ 51
4.1.　調査のまとめ 51
4.2.　授業化に向けた課題と今後の計画 52
5.　参考：これまでの「教師力養成講座」 53
5.1.　はじめに 53
5.2.　これまでの教師力養成講座 53
5.3.　おわりに 66

1. 本調査研究の概要

教育学研究科と教師教育開発センターは、岡山県教育委員会及び岡山市教育委員会との連携により、平成26年度文部科学省初等中等教育局「総合的な教師力向上のための調査研究事業（教育課題に対応するための教員養成カリキュラム開発）」を受託した。受託テーマは、「実践的指導力の養成に資する『教師力養成演習』の開発」である。

実践的指導力の養成には、教育実習、インターンシップ、ボランティア等の実地で教育課題に直面する活動経験が不可欠である。しかしながら、多種・多様な教育課題の全てを養成段階で経験することはできない。岡山大学教師教育開発センターが実施している「教師力養成講座」は、全学の教職を志望する学生を対象として、教育委員会や学校教員等から現実の教育課題をお話しいただき、課題の解決に向けた議論・演習により、教職への意識付けを高めるとともに実践的指導力の養成に資することを目的として開講している。年間7回程度の実施であり、受講希望者を募る形式の自主参加型の講座である。これまでの講座後のアンケート調査では、教職の魅力を再認識するとともに教職への意識を高める効果も確認されている。

本調査研究事業では、教育委員会や管理職を含む学校の教員が、直接的に養成段階にある学生に教育課題を問いかける主体的・協働的な演習形式の授業として「教師力養成演習」を、教員養成カリキュラムに位置づけることの妥当性・必要性を明らかにすることを目的とした。そのため、現行の「教師力養成講座」受講生を対象とする調査と、教育委員会や学校が養成段階の学生に直接的に関わる特徴的な取組みを行っている大学・教育委員会への訪問調査を実施した。受講生対象の調査は、各講座の評価、講座テーマについての要望、講座運営や教員養成カリキュラムに位置づけることに対する意見等について実施した。また、山口大学、山口県教委、東京学芸大学、三鷹市教委、鹿児島大学を対象として、大学と教育委員会や学校が連携した実践的指導力の養成を目的とした特徴的な取組みを訪問調査した。

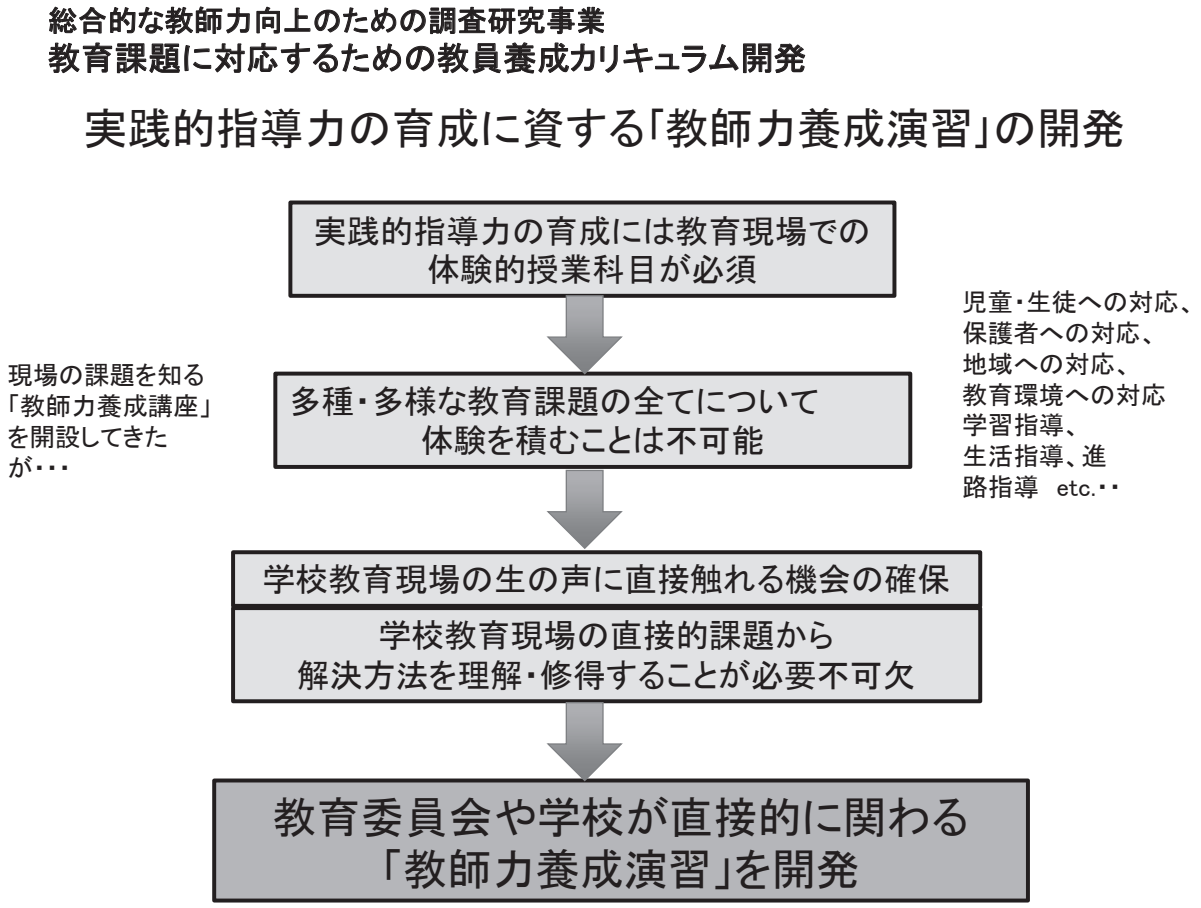
1.1. 課題認識

岡山大学では、教育学部を含めて8学部が課程認定を受けており、毎年400名を超える学生が教員免許を取得している。本学では、教師に求められる教育実践力を、1.学習指導力、2.生徒指導力、3.コーディネート力、4.マネジメント力の4つに分類し、これらをバランスよく身に付けた、反省的で創造的な教員を本学のめざす教師像として教員養成を実施している。実践的指導力を有する教員養成を実現する「教員養成コア・カリキュラム」は、教育実習や体験的授業科目を軸（コア）としており、併せて、平成25年度からは長期間にわたる教職実践インターンシップ（公立学校園での3ヶ月以上の実習）を教育学部で必修化している。

このように、実践的指導力の育成には教育現場での体験的授業科目が必須であると考えるが、実践的な体験を積むには、当然のこととして時間・期間を要する。限られた教員養成期間で、多種（児童・生徒への対応、保護者への対応、地域への対応、教育環境への対応等）・多様（学習指導、生活指導、進路指導等）な教育課題の全てについて体験を積むことは不可能であるため、実践体験を補完し学校現場における課題解決の方策の複雑さや不透明さから生じる教職に就くことの不安感を払拭するためにも、学校教育現場の生の声に直接触れる機会の確保と、課題解決方法を理解・修得することが必要不可欠である。

現在、全学の教員養成を担う教師教育開発センターでは、「教師力養成講座」を実施しているが、教員養成カリキュラムへの体系的な位置づけがされていない自主参加の講座であるため、各回の受講生数にばらつきがあるのが現状である。講座をより有意義なものとするためには、PDCAサイクル（Plan（計画）→ Do（実行）→ Check（評価）→ Act（改善）の循環）のうち、Check（評価）とAct（改善）が重要となるが、その機能はこれまで十分とはいえなかった。これまで自主講座として開催してきた「教師力養成講座」で蓄積してきたノウハウを活かし、教師に求められる4つの教育実践力がバランス良く身に付くことを目的とし、PDCAサイクルが有効に機能する体系的な授業科目として「教師力養成演習」とすることの可能性を調査研究により明らかにする。

これまで教員養成は大学が担い、教育委員会や学校は教育実習以外での直接的な関わりがほとんど無かったといえる。本調査研究により、教育委員会や学校が直接的に関わる「教師力養成演習」を教員養成カリキュラムに位置づけることの妥当性・必要性を明らかにすることは、学校現場で起こっている様々な教育課題に対応できる教師としての資質能力を具体化し、教員養成の段階から教師としての資質能力を身に付けるために大学と教育委員会や学校が連携・協力する体制が構築できるもので、学校のニーズに沿ったカリキュラム開発を共に進めることは、新たな「大学と教育委員会・学校の連携」のモデルとして教員養成課程を有する全国の大学の参考になると考える。



1.2. 現状の取組

平成22年に開設した岡山大学教師教育開発センターの教職支援部門が中心となり、岡山県教育委員会、岡山市教育委員会及び学校との連携のもと、学校現場の教育課題について直接知る機会を学生に提供する「教師力養成講座」を実施している。この講座は、同センター開設準備中の平成21年度から開催している。学校、教育委員会、大学の先生方が教育現場の現状を話し、それについてグループワーク・ディスカッションする形式で、課題理解や課題解決の方法を学べるようにしている。年間5～7回の開催であり、平成25年度には、「体罰」、「いじめ・不登校」、「保護者のクレーム」、「学級づくり」、「授業づくり」、「生徒指導」等のテーマを取り上げている。この取り組みは、教職支援活動の一環として授業単位化していない自主参加の講座として開講しているため、１講座あたりの受講生は40名程度（年間延べ250名程度）と少数にとどまっている。

1.3. 調査研究の目的

岡山大学教師教育開発センターは、全学の教員養成教育を担う組織であり、その業務の一環として教職支援・教職相談を実施している。本調査研究は、8学部（教育学部、文学部、法学部、経済学部、理学部、工学部、環境理工学部、農学部）に及ぶ総合大学の教職課程認定学部の学生を対象とした教員養成の質的向上に資する重要な事業である。

本調査研究の対象とする「教師力養成演習」は、喫緊の課題となっている「教員に求められる教育実践力の育成」を図るために、岡山県教育委員会、岡山市教育委員会及び学校との連携のもとで、学校現場の教育課題について直接知る機会を学生に提供するものであり、教育的意義は大きい。現在、授業単位化されていない自主講座として開催している「教師力養成講座」について、必要性と課題を調査研究することにより、実践的指導力の育成に資する「教師力養成演習」の開発を行い、教育学部のみならず課程認定を受けている全ての学部における教員養成カリキュラムへの位置づけや授業単位化に向けた検討資料を得ることを目的とする。

調査研究で得られた検討資料に基づき、教育学部の教員養成カリキュラムのみならず、毎月定期的に開催している8課程認定学部で構成する岡山大学教師教育開発センター教職課程運営委員会で、「教師力養成演習」を「教員養成コア・カリキュラム」に位置づけることを検討し、教員養成カリキュラムをより実践力のあるものに改善していく。

本調査研究の成果は、教育委員会・学校が教員養成に直接的に関わる、新たな「大学と教育委員会・学校の連携」として全国の教員養成に関わる大学への提案となることをも目的とし、毎年定期的に開催している岡山県・岡山市教育委員会との合同連携協力会議で「教師力養成演習」の構築について検討したうえで、毎年作成している「連携協力事業研究報告書」の中に取りまとめて報告する。

1.4. 調査研究の具体的な内容・取組方法

平成21年度から授業単位外の自主的に参加する講座として、学校現場の教育課題を直接知る機会を提供してきた「教師力養成講座」について、教員養成段階にあり教員就職直前の不安を有する学生にとっての意義や必要性を明らにした上で、教員養成期の全般を通じて「教師力養成演習」として教員養成カリキュラムへの位置づけや授業単位化に向けた検討資料を得るため以下のような調査研究を実施する。

・平成26年度に7回の実施を予定している「教師力養成講座」受講生へのアンケート調査

アンケートの具体的内容としては、各回のテーマの有用性、講座内容についての評価を問うと共に、教師を目指す上で役に立つ内容であるか、教師への意欲向上につながったか、講座の運営方法への意見などについて調査を実施する。授業としての位置づけ（単位化）することについて意見を問う。

・特徴的な取組みを行っている大学・教育委員会への訪問調査

多種・多様な教育課題の全てについて体験を積むことは不可能であるため、実践体験を補完し学校現場における課題を学校や教育委員会が直接的に養成段階の学生に関わる特徴的な取組みを行っている大学・教育委員会への訪問調査を、山口大学、山口県教委、東京学芸大学、三鷹市教委、鹿児島大学において実施する。

・教育委員会、学校との意見交換

これまでは、全学の教職課程を担う教師教育開発センターの教職支援事業として実施してきた「教師力養成講座」であるが、「教師力養成演習」として教員養成カリキュラムとして授業化（単位化）を検討する上での諸課題について意見交換・確認が必要となる。具体的には、担当者の選出、担当者の継続的確保、実施体制（シラバスの作成から評価まで）等が意見交換の議題として考えられる。

1.5. 調査研究の実施体制

所属部署・職名	氏　名	役割分担
岡山大学・学長	森田　潔	事業代表者
教育学部・学部長 教師教育開発センター・センター長	髙塚　成信	事業実施責任者
教師教育開発センター・副センター長	加賀　勝	事業実施副責任者
教師教育開発センター・副センター長	山根　文男	事業実施副責任者
教師教育開発センター・教授（特任）	小川　潔	事業実施担当者
教師教育開発センター・教授（特任）	武藤　幹夫	事業実施担当者
教師教育開発センター・コーディネーター	小林清太郎	事業実施担当者
教育学系事務部・事務長	長砂　毅	事務担当責任者
教育学系事務部・教職支援グループ主査	藤井　俊則	事務連絡担当者
教育学系事務部・教職支援グループ主任	佐々木雅徳	事務担当者

2. アンケート調査の集計・分析

教師教育開発センター教職支援部門が行っている教師力養成講座では、実施していただいた講師の先生方に、受講した学生の感想を届けることと、講座をより良いものにしていくためにアンケートを行っている。今年度は、講座自体への質問項目に追加して、本講座を授業化することに対しての質問を行った。この章では、アンケート結果とその結果に対する分析を示す。なお、第1回から第4回については、本来、こちらが想定していた、「この講座を授業化すること＝定期的に開催すること」の意図を明確にできていなかったため、「授業化＝単位を与えること」と捉えられての回答が多くなっていたため、第5回以降については、こちらの意図が伝わるようにアンケート項目を見直して実施した。実施したアンケート質問用紙及び自由記述の抜粋については、別紙として後掲する。

2.1. 今年度の教師力養成講座の開催状況

今年度の開催状況、参加人数については、「5.参考:これまでの「教師力養成講座」」の章で詳しく掲載しているので、そちらを参考にしていただきたい。参加者数（アンケート回収数とは異なる）は、最多が92人、最小が20人、1回当たりの参加者数の平均は42.7人であり、テーマによって参加者数の増減は若干あるものの、それよりも特に教育学部生においては、他の説明会、イベントとの重複が参加者数に影響を与えることが大きかった。

2.2. アンケートについて（参加者の情報）

参加者については、女子学生の方が多く参加しており、1. 開催状況で示しているとおり、第1回から第4回については4年生の参加が、第5回から第7回については3年生の参加が多くなっている。特に、第5回から第7回については、3年生も4年生も参加しやすいテーマを設定しているが、4年生については卒論などで忙しい時期でもあり、あまり参加していない。3年生については、ガイダンスが終わり、来年度の教員採用試験に向けて始動しはじめる時期であるが、少し参加が鈍いように感じる。

表2－1　性別

	第１回	第２回	第３回	第４回	第５回	第６回	第７回	合計	合計（%）
①男	10	6	14	8	13	16	14	81	28.7
②女	25	13	69	24	19	29	22	201	71.3
計	35	19	83	32	32	45	36	282	100.0

表2－2　学年

	第１回	第２回	第３回	第４回	第５回	第６回	第７回	合計
①１年	1	0	6	0	0	0	0	7
②２年	1	0	0	0	0	0	0	1
③３年	2	8	11	4	25	40	34	124
④４年	24	7	61	20	4	3	1	120
⑤M1	4	1	1	3	2	2	0	13
⑥M2	2	3	4	3	1	0	0	13
⑨無回答	1	0	0	2	0	0	1	4

計	35	19	83	32	32	45	36	282

表２－３　希望校種

	第１回	第２回	第３回	第４回	第５回	第６回	第７回	合計
①幼稚園（保育園）	0	0	0	0	0	1	0	1
②小学校	19	8	48	17	14	23	22	151
③中学校	8	4	15	5	3	5	5	45
④高等学校	6	7	13	7	6	9	5	53
⑤特別支援学校	2	0	0	1	5	6	0	14
⑥養護教諭	0	0	7	2	3	1	4	17
⑦無回答	0	0	0	0	1	0	0	4
計	35	19	83	32	32	45	36	282

2.3. アンケートについて（講座内容）

表２－４、表２－８が示すように、概ねテーマについて考えることができており、表２－９のとおり、考えたことが将来に役立つと感じている者が多数を占めており、的確なテーマが選定できていると考える。また、表２－５、表２－６から、グループでの話し合いについても、活発に行われていると感じており、活発な話し合いに参加できなかったと感じている学生も少ないことが推測できる。また、表２－７によると、約30％の学生が、話し合いの時間が短いと感じており、時間配分の工夫が必要である。しかし、逆にとらえると、時間が足りないと感じるくらい話し合いが白熱していることが伺える材料にもなるのではないだろうか。

表２－４　基調提案について（上段：実数、下段：パーセント）

	第１回	第２回	第３回	第４回	第５回	第６回	第７回	合計
①とても考えさせられた	30	17	77	29	16	36	24	229
	85.7	89.5	92.8	90.6	50.0	80.0	66.7	81.2
②どちらかといえば考えさせられた	5	2	6	2	15	9	11	50
	14.3	10.5	7.2	6.3	46.9	20.0	30.6	17.7
③どちらかといえば考えさせられなかった	0	0	0	1	1	0	0	2
	0.0	0.0	0.0	3.1	3.1	0.0	0.0	0.7
④考えさせられなかった	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
⑤わからない	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
⑥無回答	0	0	0	0	0	0	1	1
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	0.4
計	35	19	83	32	32	45	36	282

表２－５　グループでの話し合い（上段：実数、下段：パーセント）

	第１回	第２回	第３回	第４回	第５回	第６回	第７回	合計
①とても活発に行われた	19	9	44	20	12	20	19	143
	54.3	47.4	53.0	62.5	37.5	44.4	52.8	50.7
②どちらかといえば活発に行われた	15	10	39	12	19	19	16	130
	42.9	52.6	47.0	37.5	59.4	42.2	44.4	46.1
③どちらかといえば活発に行われなかった	1	0	0	0	1	6	1	9
	2.9	0.0	0.0	0.0	3.1	13.3	2.8	3.2
④活発に行われなかった	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
⑤わからない	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計	35	19	83	32	32	45	36	282

表２－６　自分の発言について（上段：実数、下段：パーセント）

	第１回	第２回	第３回	第４回	第５回	第６回	第７回	合計
①とても積極的に発言できた	8	8	26	12	6	9	11	80
	22.9	42.1	31.3	37.5	18.8	20.0	30.6	28.4
②どちらかといえば積極的に発言できた	22	7	40	14	21	32	21	157
	62.9	36.8	48.2	43.8	65.6	71.1	58.3	55.7
③どちらかといえば積極的に発言できなかった	2	2	15	5	3	3	3	33
	5.7	10.5	18.1	15.6	9.4	6.7	8.3	11.7
④積極的に発言できなかった	3	2	2	0	2	0	1	10
	8.6	10.5	2.4	0.0	6.3	0.0	2.8	3.5
⑤わからない	0	0	0	1	0	1	0	2
	0.0	0.0	0.0	3.1	0.0	2.2	0.0	0.7
計	35	19	83	32	32	45	36	282

表２－７　話し合いの時間について（上段：実数、下段：パーセント）

	第１回	第２回	第３回	第４回	第５回	第６回	第７回	合計
①ちょうど良い	27	6	58	22	13	37	15	178
	77.1	31.6	69.9	68.8	40.6	82.2	41.7	63.1
②短い	1	8	5	2	5	2	10	33
	2.9	42.1	6.0	6.3	15.6	4.4	27.8	11.7

③どちらかといえば短い	5	4	16	5	13	6	10	59
	14.3	21.1	19.3	15.6	40.6	13.3	27.8	20.9
④どちらかといえば長い	2	1	4	3	1	0	1	12
	5.7	5.3	4.8	9.4	3.1	0.0	2.8	4.3
⑤長い	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
⑥わからない	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計	35	19	83	32	32	45	36	282

表２－８　まとめについて（上段：実数、下段：パーセント）

	第１回	第２回	第３回	第４回	第５回	第６回	第７回	合計
①とても考えさせられた	30	15	81	28	17	35	29	235
	85.7	78.9	97.6	87.5	53.1	77.8	80.6	83.3
②どちらかといえば考えさせられた	4	4	2	1	13	9	6	39
	11.4	21.1	2.4	3.1	40.6	20.0	16.7	13.8
③どちらかといえば考えさせられなかった	0	0	0	1	1	1	1	4
	0.0	0.0	0.0	3.1	3.1	2.2	2.8	1.4
④考えさせられなかった	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
⑤わからない	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
⑥無回答	1	0	0	2	1	0	0	4
	2.9	0.0	0.0	6.3	3.1	0.0	0.0	1.4
計	35	19	83	32	32	45	36	282

表２－９　今日考えたことについて（上段：実数、下段：パーセント）

	第１回	第２回	第３回	第４回	第５回	第６回	第７回	合計
①とても役に立つと思う	33	18	82	29	23	40	31	256
	94.3	94.7	98.8	90.6	71.9	88.9	86.1	90.8
②どちらかといえば役に立つと思う	2	1	1	2	9	5	5	25
	5.7	5.3	1.2	6.3	28.1	11.1	13.9	8.9
③どちらかといえば役に立つと思わない	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

④役に立つと思わない	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
⑤わからない	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
⑥無回答	0	0	0	1	0	0	0	1
	0.0	0.0	0.0	3.1	0.0	0.0	0.0	0.4
計	35	19	83	32	32	45	36	282

2.4. アンケートについて（センター企画講座）

表2－10から、ほとんどの学生が次回も参加したいと感じており、この講座自体の満足度が高いと感じていると考えられる。また、自由記述の感想欄にも多くの記述がなされており、講座への満足度、テーマに対する深化を伺うことができる。回によっては参加者が少ない回もあり、周知の仕方についても検討する必要があるが、教職相談室での指導とのセット受講が一番効果的で、まずは相談室に足を向けさせる必要がある。

表2－10　次回の講座について（上段：実数、下段：パーセント）

	第１回	第２回	第３回	第４回	第５回	第６回	第７回	合計
①参加したい	28	16	66	26	22	36	31	225
	80.0	84.2	79.5	81.3	68.8	80.0	86.1	79.8
②どちらかといえば参加したい	5	1	14	5	9	9	5	48
	14.3	5.3	16.9	15.6	28.1	20.0	13.9	17.0
③どちらかといえば参加したくない	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
④参加したくない	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
⑤わからない	1	1	3	1	1	0	0	7
	2.9	5.3	3.6	3.1	3.1	0.0	0.0	2.5
⑥無回答	1	1	0	0	0	0	0	2
	2.9	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7
計	35	19	83	32	32	45	36	282

表2－11　この講座を何で知ったか（上段：実数、下段：パーセント）

	第１回	第２回	第３回	第４回	第５回	第６回	第７回	合計
①教育学部の掲示板を見て	9	0	5	8	6	8	6	42
	25.7	0.0	6.0	25.0	18.8	17.8	16.7	14.9
②教育学部以外の掲示板を見て	0	1	0	0	0	0	0	1
	0.0	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4

③教職相談室の情報で	9	6	39	11	16	22	23	126
	25.7	31.6	47.0	34.4	50.0	48.9	63.9	44.7
④センターのホームページを見て	1	1	3	2	0	1	1	9
	2.9	5.3	3.6	6.3	0.0	2.3	2.8	3.2
⑤岡大教職ナビの情報で	12	6	16	6	7	6	3	56
	34.3	31.6	19.3	18.8	21.9	13.3	8.3	19.9
⑥友人からの情報で	2	6	12	0	1	5	1	26
	5.7	26.3	14.5	0.0	3.1	11.1	2.8	9.2
⑦その他	2	0	7	3	2	3	2	19
	5.7	0.0	8.4	9.4	6.3	6.7	5.6	6.7
⑥無回答	0	0	1	2	0	0	0	3
	0.0	0.0	1.2	6.3	0.0	0.0	0.0	1.1
計	35	19	83	32	32	45	36	282

2.5. アンケートについて（教師力養成講座の授業化（単位化）（第１回から第４回））

第1回から第4回のアンケート結果では、表2－12から、授業化に対して、反対の意見の方が多い結果となった。これは、単位がでるということにインセンティブが働く学生が少なく、それよりも自由記述にあるように、教師になりたいというモチベーションを持って参加している者との交流を大事にしたいと感じていることが伺える。表2－13から表2－16については、授業化した場合を想定しての質問になっているので、授業化に対して反対の学生も回答してくれている。場面指導や模擬授業を取り込むことについての反対は少ないが、学外での実施については難色を示している回答になっており、おそらく移動時間に対する懸念を示していると考える。表2－17から、ほとんどの学生が、異なる学校種の内容であっても参考になっていると感じており、異なる学校種のことを学ぶ意義を理解している学生が多いことが伺える。

表2－12　授業化（単位がでること）についてどう思うか（上段：実数、下段：パーセント）

	第１回	第２回	第３回	第４回	合計
①したほうがよい	13	8	39	9	69
	37.1	42.1	47.0	28.1	40.8
②しなくてもよい	22	11	42	22	97
	62.9	57.9	50.6	68.8	57.4
③無回答	0	0	2	1	3
	0.0	0.0	2.4	3.1	1.8
計	35	19	83	32	169

上記の回答を選んだ理由（抜粋）。

【①したほうがよい】

・積極的に参加するきっかけになると思うから。

・現場の先生の話を聞く機会を得られるから。
・教職を目指す人が必ず考えなければならないことだと思うから。

【②しなくてもよい】
・単位目的でなく、向上心をもってきている人たちと話し合える貴重な機会だと思うので、今のままがよい。
・単位化すると、どうしても「義務」になってしまい、いい加減な気持ちで受講する人も出てくるのではないかと思う。
・授業の強制というイメージが学生の意欲や自主性を損なう可能性があるので。

表２－１３　何年生で受講したいか（上段：実数、下段：パーセント）

	第１回	第２回	第３回	第４回	合計
①１年	0	1	3	3	7
	0.0	5.3	3.6	9.4	4.1
②２年	0	1	9	1	11
	0.0	5.3	10.8	3.1	6.5
③３年	20	13	40	14	87
	57.1	68.4	48.2	43.8	51.5
④４年	13	3	27	12	55
	37.1	15.8	32.5	37.5	32.5
⑤無回答	2	1	4	2	9
	5.7	5.3	4.8	6.3	5.3
計	35	19	83	32	169

表２－１４　どのような時間割を希望するか（上段：実数、下段：パーセント）

	第１回	第２回	第３回	第４回	合計
①毎週１コマ	9	4	17	9	39
	25.7	21.1	20.5	28.1	23.1
②隔週２コマ	10	4	30	6	50
	28.6	21.1	36.1	18.8	29.6
③半期随時	2	2	10	4	18
	5.7	10.5	12.0	12.5	10.7
④通年随時	11	7	18	10	46
	31.4	36.8	21.7	31.3	27.2
⑤その他	0	1	4	0	5
	0.0	5.3	4.8	0.0	6.5

⑥無回答	3	1	4	3	11
	8.6	5.3	4.8	9.4	6.5
計	35	19	83	32	169

表２－１５　場面指導や模擬授業を組み込むことについて（上段：実数、下段：パーセント）

	第１回	第２回	第３回	第４回	合計
①組み込んだほうがよい	18	10	49	22	99
	51.4	52.6	59.0	68.8	58.6
②組み込む必要はない	2	1	12	1	16
	5.7	5.3	14.5	3.1	9.5
③どちらでもいい	13	7	22	8	50
	37.1	36.8	26.5	25.0	29.6
④無回答	2	1	0	1	4
	5.7	5.3	0.0	3.1	2.4
計	35	19	83	32	169

表２－１６　学外（学校園等）で実施することについて（上段：実数、下段：パーセント）

	第１回	第２回	第３回	第４回	合計
①実施したほうがよい	5	2	9	7	23
	14.3	10.5	10.8	21.9	13.6
②どちらかといえば実施したほうがよい	6	3	13	2	24
	17.1	15.8	15.7	6.3	14.2
③どちらともいえない	11	6	20	4	41
	21.4	31.6	24.1	12.5	24.3
④どちらかといえば学内で実施したほうがよい	7	4	22	8	41
	20.0	21.1	26.5	25.0	24.3
⑤学内で実施したほうがよい	6	3	19	9	37
	17.1	15.8	22.9	28.1	21.9
⑥無回答	0	1	0	2	3
	0.0	5.3	0.0	6.3	1.8
計	35	19	83	32	169

表２－１７　講義内容が希望の学校種や教科でない場合（上段：実数、下段：パーセント）

	第１回	第２回	第３回	第４回	合計
①参考になる	24	12	55	22	113
	68.6	63.2	66.3	68.8	66.9
②どちらかといえば参考になる	10	5	25	7	47
	28.6	26.3	30.1	21.9	27.8
③どちらともいえない	1	2	2	1	6
	2.9	10.5	2.4	3.1	3.6
④どちらかといえば参考にならない	0	0	1	0	1
	0.0	0.0	1.2	0.0	0.6
⑤参考にならない	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
⑥無回答	0	0	0	2	2
	0.0	0.0	0.0	6.3	1.2
計	35	19	83	32	169

2.6. アンケートについて（教師力養成講座の授業化（継続）（第５回から第７回））

第5回から第7回のアンケート結果では、表2－18から、授業化に対して、賛成の意見の方が多い結果となった。これは、単に単位を出すために授業化を考えているのではなく、この講座を継続的に行うために、授業化していくという目的を説明した結果である。しかし、それでも、「授業にしてしまうと、すべて参加できる予定の人しか受けられなくなる」、「本当に自分にとって必要だと考える人だけが希望すればいいと思う」、「参加できるときに参加したい」といった、継続して行われることは望むものの、開講形態や開講時期については現状のままがよいとの意見もあり、受講条件の緩和や回によっては聴講も可能にするなどの工夫も必要である。表2－22については、第1回から第4回までのものと同様の回答となっている。

表２－１８　授業化（継続）についてどう思うか（上段：実数、下段：パーセント）

	第５回	第６回	第７回	合計
①したほうがよい	21	32	20	73
	65.6	71.1	55.6	64.6
②しなくてもよい	11	13	16	40
	34.4	28.9	44.4	35.4
計	32	45	36	113

上記の回答を選んだ理由。

【①したほうがよい】

・多くの人が参加できると思うため。

・先生になる人間として、知っておくべきことが数多くあると感じた。自分が教師になる上で考えさ

せられることも多い。
・全員が教職課程で学ぶべき。
・授業化すると参加しやすくなるように感じる。

【②しなくてもよい】
・本当に自分にとって必要だと考える人だけが希望すればいいと思うから。
・参加できるときに参加したい。
・本当に来る意志がある人だけ集まる講座にしたいから。

表２－１９　何年生で受講したいか（上段：実数、下段：パーセント）

	第５回	第６回	第７回	合計
①１年	1	1	1	3
	3.1	2.2	2.8	2.7
②２年	3	6	2	11
	9.4	13.3	5.6	9.7
③３年	20	33	28	81
	62.5	73.3	77.8	71.7
④４年	7	4	5	16
	21.9	8.9	13.9	14.2
⑤無回答	1	1	0	2
	3.1	2.2	0.0	1.8
計	32	45	83	113

表２－２０　どのような時間割を希望するか（上段：実数、下段：パーセント）

	第５回	第６回	第７回	合計
①毎週１コマ	9	17	11	37
	28.1	37.8	30.6	32.7
②隔週２コマ	6	11	13	30
	18.8	24.4	36.1	26.5
③半期随時	7	9	3	19
	21.9	20.0	8.3	16.8
④通年随時	9	6	8	23
	28.1	13.3	22.2	20.4
⑤その他	0	0	1	1
	0.0	0.0	2.8	0.9
⑥無回答	1	2	0	3
	3.1	4.4	0.0	2.7

計	32	45	36	113

表２－２１　場面指導や模擬授業を組み込むことについて（上段：実数、下段：パーセント）

	第５回	第６回	第７回	合計
①組み込んだほうがよい	23	28	20	71
	71.9	62.2	55.6	62.8
②組み込む必要はない	0	1	7	8
	0.0	2.2	19.4	7.1
③どちらでもいい	8	14	8	30
	25.0	31.1	22.2	26.5
④無回答	1	2	1	4
	3.1	4.4	2.8	3.5
計	32	45	36	113

表２－２２　講義内容が希望の学校種や教科でない場合（上段：実数、下段：パーセント）

	第５回	第６回	第７回	合計
①参考になる	15	26	17	58
	46.9	57.8	47.2	51.3
②どちらかといえば参考になる	13	15	15	43
	40.6	33.3	41.7	38.1
③どちらともいえない	3	3	3	9
	9.4	6.7	8.3	8.0
④どちらかといえば参考にならない	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0
⑤参考にならない	0	0	1	1
	0.0	0.0	2.8	0.9
⑥無回答	1	1	0	2
	3.1	2.2	0.0	1.8
計	32	45	36	113

2.7. アンケート調査まとめ

単位を与えるために授業化することには賛成ではないが、この講座を継続的に行うために授業化することについては、理解を示す傾向になった。この講座は、教職相談室の教員が、現在、教員が直面する課題を鑑みてテーマを選定しており、そのテーマについては、学生の満足度からも的確に選定されていると考えることができる。このように学生の満足度が高い講座を継続的に行うために、授業化を進めていく必要があるが、開講形態や開講時期についてはもう少し議論を深めて行く必要がある。

2.8. 参考：アンケート質問用紙、自由記述（抜粋）

「教師力を身につけよう！」アンケート①

＊番号で回答するところは、選択肢の右側の数字を1カ所だけ黒くぬりつぶして下さい。

1．あなた自身のことについて

(1) 性別　①男　②女　　① ②

(2) 学年　①1年　②2年　③3年　④4年　⑤M1　⑥M2　⑦D1～3　⑧卒業生　　① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧

(3) 所属（学部・学科・コース）

①小学校教育コース　②中学校教育コース
③特別支援教育コース　④幼児教育コース
⑤養護教諭養成課程　⑥教育学部以外の学部
⑦大学院（教育学研究科）　⑧大学院（教育学研究科以外）
⑨その他（　　）　　① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

(4) 受験を予定している学校種類（第一希望を1つ選択）

①幼稚園（保育園）　②小学校　③中学校
④高等学校　⑤特別支援学校　⑥養護教諭　　① ② ③ ④ ⑤ ⑥

2．今回の講座について

(1) 基調提案（最初のお話）について、どのように感じましたか。

①とても考えさせられた
②どちらかといえば考えさせられた
③どちらかといえば考えさせられなかった
④考えさせられなかった
⑤わからない　　① ② ③ ④ ⑤

(2) グループでの話し合いは、活発に行われましたか。

①とても活発に行われた
②どちらかといえば活発に行われた
③どちらかといえば活発に行われなかった
④活発に行われなかった
⑤わからない　　① ② ③ ④ ⑤

(3) グループでの話し合い中、あなた自身の発言はどうでしたか。

①とても積極的に発言できた
②どちらかといえば積極的に発言できた
③どちらかといえば積極的に発言できなかった
④積極的に発言できなかった
⑤わからない　　① ② ③ ④ ⑤

(4) グループでの話し合いの時間の長さはどうでしたか。

①ちょうど良い　②短い　③どちらかといえば短い
④どちらかといえば長い　⑤長い　　① ② ③ ④ ⑤

(5) まとめ（最後のお話）について、どのように感じましたか。

①とても考えさせられた
②どちらかといえば考えさせられた
③どちらかといえば考えさせられなかった
④考えさせられなかった
⑤わからない　　① ② ③ ④ ⑤

(6) 今回の講座で考えたことは、あなたが教師を目指す上で役に立つと思いますか。

①とても役に立つと思う
②どちらかといえば役に立つと思う
③どちらかといえば役に立つと思わない
④役に立つと思わない
⑤わからない　　① ② ③ ④ ⑤

アンケート②もご記入ください

こちらの数字をぬって下さい。（1カ所だけ）

「教師力を身につけよう！」アンケート②

３．教師教育開発センター企画講座について

(1) 次回の講座も参加したいと思いますか。

①参加したい
②どちらかといえば参加したい
③どちらかといえば参加したくない
④参加したくない
⑤わからない

① ② ③ ④ ⑤

(2) 今回の講座の感想や質問など、自由に書いてください。

(3) 次回の講座で取り上げてほしいテーマを書いてください。

(4) この講座のことを、何で知りましたか。（１つだけ選択）

①教育学部の掲示板を見て
②教育学部以外の掲示板を見て　（　　学部）
③教職相談室の情報で
④センターのホームページを見て
⑤岡大教職ナビの情報で
⑥友人からの情報で
⑦その他　（　　）

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦

アンケート③もご記入ください

（授業化に関するアンケート（第１回～第４回））

「教師力を身につけよう！」アンケート（授業化に向けて）③

教師教育開発センターでは、本講座の授業化（単位化）を検討しています。続いての問は授業化（単位化）に向けてのものです。引き続きご協力をお願いいたします。

＊番号で回答するところは、選択肢の右側の数字を**１カ所だけ**黒くぬりつぶして下さい。

４．教師力養成講座の授業化（単位化）について

(1) 授業化して単位が出るようにするということについてどう思いますか。

①したほうがよい　②しなくてもよい　①　②

上記の回答を選んだ理由を教えてください。

(2) 授業化（単位化）した場合何年生で受講したいですか。

①1 年　②2 年　③3 年　④4 年　①　②　③　④

(3) どのような時間割を希望しますか。

①毎週 1 コマ　②隔週 2 コマ　③半期随時　④通年随時　①　②　③　④　⑤
⑤その他（　　）

(4) 現在は演習として、グループでの話し合いをしています。
その演習の中に、場面指導や模擬授業を組み込むことについてどう思いますか。

①組み込んだほうがよい　②組み込む必要はない　③どちらでもいい　①　②　③

(5) 講座自体を学外（学校園）で実施することについてどう思いますか。

①実施したほうがよい
②どちらかといえば実施したほうがよい
③どちらともいえない　①　②　③　④　⑤
④どちらかといえば学内で実施したほうがよい
⑤学内で実施したほうがよい

(6) 講義内容が、自分の目指している学校種や教科と違う場合、参考になると思いますか。

①参考になる
②どちらかといえば参考になる
③どちらともいえない　①　②　③　④　⑤
④どちらかといえば参考にならない
⑤参考にならない

(7) どのような内容であれば積極的に受講しようと思いますか。自由に書いてください。

(8) その他授業化（単位化）にあたっての要望があれば自由に書いてください。

★ご協力ありがとうございました。

（授業化に関するアンケート（第５回～第７回））

「教師力を身につけよう！」アンケート（授業化に向けて）③

教師教育開発センターでは、本講座の授業化を検討しています。続いての問は授業化に向けてのものです。引き続きご協力をお願いいたします。

＊番号で回答するところは、選択肢の右側の数字を１カ所だけ黒くぬりつぶして下さい。

４．教師力養成講座の授業化について

(1) この講座を確実に続けるために授業化を検討していますが、このことについてどう思いますか。

①したほうがよい　②しなくてもよい　① ②

上記の回答を選んだ理由を教えてください。

(2) 授業化した場合何年生なら受講できそうですか。

①1 年　②2 年　③3 年　④4 年　① ② ③ ④

(3) どのような時間割を希望しますか。

①毎週 1 コマ　②隔週 2 コマ　③半期随時　④通年随時　① ② ③ ④ ⑤
⑤その他（　　）

(4) どのような内容であれば積極的に受講しようと思いますか。自由に書いてください。

(5) 教員になるにあたって何か不安に思うことはありますか。自由に書いてください。

(6) 現在、現職の教員・校長、教育委員会の方に講師をお願いしていますが、その他にどのような方を講師として希望しますか。自由に書いてください。

**(7) 現在は演習として、グループでの話し合いをしています。
その演習の中に、場面指導や模擬授業を組み込むことについてどう思いますか。**

①組み込んだほうがよい　②組み込む必要はない　③どちらでもいい　① ② ③

(8) 講義内容が、自分の目指している学校種や教科と違う場合、参考になると思いますか。

①参考になる
②どちらかといえば参考になる
③どちらともいえない　① ② ③ ④ ⑤
④どちらかといえば参考にならない
⑤参考にならない

(9) その他授業化にあたっての要望があれば自由に書いてください。

★ご協力ありがとうございました。

自由記述（抜粋）

○今回の講座の感想や質問など、自由に書いてください。

第1回（どの子も参加でき、どの子もわかる授業）

●現場の実態や、現場の先生方の児童への働きかけ、大切にしていることなど、知ることができ、とても勉強になった。

●特別支援教育の視点に立った教育は、障がいのない子にとっても優しいという部分にとても共感できた。教員としてぜひ実践したい。

●ワークシートなど授業細部までお話いただきイメージが膨らんだ。

●授業のユニバーサルデザイン、誰もが分かる授業というのは理想的だなと思った。

●特別支援についてきちんと考えるいい機会になった。これからどんどんニーズが増えてくると思うので、もっとしっかり考えていきたい。

●「どの子にも」というのが大きなテーマだと思った。支援が必要な子だけでもなく、できる子だけでもなく、みんなが達成感をもち、成長していけるように、教員としていろんな手だてを考えなければいけないなと思った。

●イメージと現場の実情のギャップをうめることができた。特支教育は全ての子どもにとってプラスになると改めて実感した。

第2回（小中高等学校におけるキャリア教育）

●キャリア教育を通して、働くことや学習意欲について考えるよい機会であった。

●今まで聞いたことはある言葉「キャリア教育」について、理解とともに、実際に指導案作成など実践的なこともでき、非常によい体験ができた。参加してよかった。

●小・中・高どの段階でもキャリア教育は大切ということがわかった。ディスカッションの発表ではさまざまな考えが聞けてよかった。

●キャリア教育は子どもたちの将来に大きく関わること。その充実で学習意欲を高めることができることも今回分かったので、教科との連携の中で子どもたちが考えられる機会を多く作っていきたい。

●キャリア教育というのは、聞いたことはあるが。あまり理解していなかったが、今回の講座を聞き、とてもよく分かった。また、今までキャリア教育という認識はなかったが、そのような授業を受けてきていたということに驚いた。今日、学んだ、4つの観点を意識して、役立てていきたい。

第3回（子どもの何を褒め、何を叱らなければならないのか）

●「叱ること」はいつも難しいと感じていた。今回のお話で、褒めることと叱ることが繋がっているのだときづくことができた。今回学んだことをぜひ実践していきたい。

●褒める、叱ることに関しては教師になった際、確実に直面する問題なので、今回改めて考えることができてよかった。このような機会があるとないとでは全く違うと思うので、とても有意義な時間を過ごすことができた。

●褒めること、叱ることは簡単なようで難しいと感じた。多くの人の意見や感想を聞けて、とても考えさせられた。

●先生の実体験などを聞き、そこから、具体的にイメージされる子どもの成長、変容の姿にとても感動した。子どもの力は本当に素晴しいと思うと同時に、その力を引きだしてあげられる教師になりたいと思った。

●実習やインターンシップで「叱る」ということが課題だと感じていたけれど、褒めることと叱ることは繋がっていることで、大切なのはどんな子を育てたいか、という自分の教育理念なのだと今回強く感じることができた。先生のお話を今のタイミングで聞けて、本当によかった。

●叱ることは子どもに嫌われたらどうしようと不安になってなかなかできないが、子どもの将来を考えると嫌われると不安になっている場合じゃないと思った。

●1年生として参加した人がとても少なかったので、最初は不安でしたが、先輩方にフォローしていただき、とても勉強になる話し合いができた。教員の魅力がとても感じられ、自分の理想の先生像が少しかたまってきたように思う。

第4回（多くの教師は、教師になって揺らぐ）

●ビデオや先生のお話から子どもがそのよさを存分に出したり、頑張れるような、クラスのみんなで学び合おう、みんながいていいなと思えるようなクラスをつくっておられて、私も将来そんな雰囲気がつくれたらなと思った。
●自分自身のめざす教師像について、より明確にすることができた。今日のお話をきいて、自分の理想の教師像について考えを深め、理念をしっかりと持って、教師を目指していきたい。
●とても勉強になった。テクニックというより「教師」そのものをみつめるキッカケになった。
●最初は「3時間も何をやるのだろう」と思っていたが、終わってみるとあっという間で、もっと話を聞きたい、話し合いをしたいとも思った。
●授業の実践ビデオが良かった。「個の人間としての教師」像も焦点を当てた、前向きなお話で、たいへん励みになった。
●教師の仕事で避けては通れない悩みなどを聞けてよかった。実際のクラスのビデオのおかげでリアルな様子が伝わってきた。

第5回（ICTを活用した授業づくり）

●「授業をする上で」教材提示をすることに焦点を当てられていたが、プリントに書いたことをクラスで共有するという方法もあると思う。上手に使えば有用であると私自身は考えている。
●ICT活用に対しては、抵抗が強かったので、今日いろんな活用例をみて、使ってみたいなと思った。ただ、ICTにのみこまれないようにだけは気をつけたい。
●ただICTの活用についての話を聞くのではなく、実際に授業を作りながらどこを写すのか、どう活用するのかを考えていくことでより具体的に現場での活用をイメージすることができた。
●ICTを活用することによって、生徒によりわかりやすい説明ができることがわかった。説明する時間を短くして生徒の学びの児童を長くとることで、より効果的な授業がつくれると思った。
●ICTについては、ほとんど触れたことがなかったので、今回実際に実物提示装置を使ってみて、便利だなと思った。絵を拡大コピーして板書に貼るという手間がはぶけて、効率がいいなと思った。
●ICT機器を活用した授業、活用の必要性は、実習でも経験したばかりで、実際の教材を使って、アイデアを出して考えることができた。

第6回（「子どもたちにとって魅力的な授業」をどのように創るか）

●実習で教材研究の大切さを先生方に教わったが、その教材を好きになる、ということが第一に大切だということを今日の講座で知る事ができ、参加して良かった。
●魅力的な授業をつくるためにはまず教師が教材を好きになることだと改めて知り、子どもたちになったつもりで教材研究をし、指導案をつくっていくことが大切なのだと分かり、実践したいと思った。
●養護の学生は「授業」の内容になるとあまり感心がない人が多いが、保健指導にも、なぜ健康が大切なのか？言われて手洗いをする、のではなく自ら主体的に、というのが言えるのではないかと思った。
●まずは授業を大切にすること、授業の中で、一体化してその他のこと（学級づくり、人間関係づくり）も行われていくことを大切にしたい。声を出して　歯を見せて　手をたたいて　笑うを実践したい。
●「主体的な学習を」ということはよく言われているが、主体的な学習をさせるためにどのように教師がすればよいのかを、それを今回はとても考えさせられるテーマであった。また、実際に教えるためにはどうすればよいかを個人だけでなく、グループでも考えることができた。
●教育現場で、いかに、自分の今までの経験のひきだしの質やその数が重要か、そして、相手がほっとで

きるためには、自分の心の安定が大切だという言葉は、とても必要なものであると思った。

第7回（今、学校現場で、教師に何が求められているのか）

●今日の内容は教員を目指すうえで、とても良いものであった。なぜなら、先生の実体験のもとに教師にとって大切なもの、求められているものをわかりやすく教えて頂けたからである。今回のお話をふまえ、これから教員になる前に「自分はどんな教師になりたいのか？」と考えていきたい。

●様々な意見を聞くことが出来て、自分の視野や語彙力を増やすことが出来た。また、実際に教師をされている方のお話を聞いて、リアルな感情だなと考えさせられた。

●「教師にとって、何が必要か」ということを改めて考えさせられた。他者の意見も聞くことで、さらに視野が広がったように感じる。

●「一生懸命さは子どもに伝わる」という言葉が印象的に残った。子どものことを常に考え、子どもと正面から向き合い、共に成長していけるような教師になりたいと思った。

●教師には「ぶれない」ことが必要であるということについて、自分にはまだ確かな信念がないと思わされた。このような子どもたちを育てたいという思いがぼんやりとしており、思いをもてるよう学んでいきたいと思った。

●学校現場で求められること、と言われると、今まで具体的に自信をもって答えることができなかったが、先生のお話をきいて、子どものことを一番に考えて、どうしたいかを考えたら、自分の中で大切にしたいことは見つかると思った。また考えようと思う、また、グループでの話し合いで、自分が思いつかなかった視点での意見をきけたのがとても刺激になった。

（授業化に関する項目（第1回から第4回））

○授業化して単位が出るようにするということについてどう思いますか。

上記の回答を選んだ理由を教えてください。

①したほうがよい

●教員になる前に知っておきたいことなどが知れるため（ただ、必修ではなく、選択の方がよい、教師を目指す意識の高い人同士で受けたい）。

●より多くの人が参加するようになり、グループディスカッションの時などに、多様な意見を聞くことができると思うから。

●来ようという意思がある人だけでなく、もっと多くの人にこのような素晴しい話をきいてもらいたいと思ったため。きっかけになればよいと思う。

●講座に参加しようとする意欲が高まる。より大勢の人と意見をかわすことで、教師になる前に様々な見方や考え方が身につくと思う。

●授業の時間として、講座を受けられるなら、やはりよい。

●教職を目指す人が必ず考えなければならないことだと思うから。

●義務的になってしまうのは良くないと思うが、教師として必要な力を身につけるには全員が受けるべき講座であると思った。

●授業の時間割の中に組み込むことができるため、より一層、講座を受けやすくなると考えるから。

●1・2年のうちから現場の話をきいたり、教師になった自分を想像することで、今自分が何をすべきか考えることができる。

●他教科、他専修の人と話す機会があるとその教科の考え方などを知るきっかけになるので。

②しなくてもよい

●授業にすることで、強制的に受けなければならない感じがする。先生になるという自主的な意欲をもって取りくむべきである。

●単位が出るから参加したいと思っているわけではないので、単位をとることを重視する者（意識の低い者）

がふえることが心配。
●がんばりたい！知りたいという意欲のある人同士で学んだ方がいいと思うから。
●「単位が出るから受ける」という人も当然出てしまうと思う。それはそれで、多くの人が講座を聞けてよいかもしれないが、意欲のある人たちと取り組みたい気持ちもあるので。
●しなくても、毎回「受けてよかった」と思えるからこそ、来られている。自主性のある方々と意欲的に話し合いができるので、“自主”講座でもいいと思う。
●意欲がある人のみで良いと思う。
●都合に合わせて受講したいから。
●参加したい人だけが集まるので自分のモチベーションも上がる。自分の都合と興味に合わせて参加／不参加を決められるから。
●教師力養成講座は教師になる前に考えておくべきことを考える場だと思う。単位を取るために受けるという、やる気のあまり無い人と一緒に話し合いをするのは、やる気がある人にとっては少しつらい。
●他学部の学生が参加しづらくなると思う。
●毎回学外から講師の方をお呼びすることができるのか？学内の先生がされるとすると、他の授業との内容の差別化が難しいのではないか。

○どうような内容であれば積極的に受講しようと思いますか。
●教採に役立つ。
●場面指導や模擬授業の練習になる。
●教育現場に出てすぐに役立つ情報。
●幼小中連携の取組みや、地域との取り組みはどのようなものがあるのか。
●国際理解教育について　特に、日本人学校を経験されている先生の話を聞きたい。
●特別支援教育やキャリア教育など、現在の学校現場でキーワードになっていることを多く学校現場の先生や専門の方からお話を聞きたい。
●現代教育のキーワードとなるような内容（今回のように「特別支援教育」）。
●学校現場で起きている課題やそのための取組みについて知りたい。
●教師という職のやりがいについて。
●大学内・講義では教えられない現場のことが実際の取組　子どものようす、反応など
●グローバル人材の育成。
●子どもたちの学習意欲を高めるためには。
●問題行動にどう対処するか。
●学校では現場の先生方に触れる機会が少なく、理論的なものが多い。実践的で知らないことを沢山知識として得られる内容
●実習やインターンで感じたことや整理し深められるようなこと。
●「現場」を意識できる内容、私自身「教師」について真剣に考えたのは3年生になってからだった。授業化するのであれば、現場に授業を見に行ったり、模擬授業を行ったりできたら良いと思う。そして、1、2回生にもぜひ教職の良さ、やりがいを伝えてほしいと思う。
●保護者対応。
●学生の身では分かりにくいこと。

○その他授業化（単位化）にあたっての要望があれば自由に書いてください。
●選択必修制にしたり、実習がある時季などは避けていただきたい。また、集中よりは隔週が良い。
●隔週にしたり、一年間を通して行う授業にして、毎週じゃないという特別感があれば良いと思った。
●1回生から受講可能してほしい。私が1回生の時は理論が中心で生の声をきく機会が少なく、もっと詳しく知りたい！と感じた記憶がある。したがって、多くの学生が早いうちから教師を意識できると良いなと思う。

●2年生など、早い段階から、考えを深めることができると、実習やボランティア、その他の講義が、より有意義なものになると思う。
●他学部生も受講可にしていただけるとうれしい。

（授業化に関する項目（第5回から第7回））
○授業化して単位が出るようにするということについてどう思いますか。
上記の回答を選んだ理由を教えてください。
①したほうがよい
●絶対にためになる。教師になる子もならない子も、免許をもつ以上は、学んだ方がいい。
●いろんな人の考えをきけることが少ないので、このように意見交換や、現場の先生の話をきくと、自分の中で考えるきっかけになる。
●模擬授業等実践を含めた内容だから。座学ばかりでは得られないものが沢山ある。将来教師を目指すならば実践力の底上げをしたい。
●理論を学ぶだけの大学ではダメだと思うし、実践する場があれば、どうすればよいか実際を踏まえてできると思うから。
●役に立つ。外部の方のお話を聴く機会は滅多にないため。
●日常的に教育について考えるようになる。
●自主性も大切だけど、こんないい講演がきけると思ってない人がいるなら、もったいない。
●本当に教師を目指している人にとっては、どのお話も非常に有意義なものが多いため。
●全員が教職課程で学ぶべき。
●非常にモチベーションが上がるから。
●実際に教師の方の話をきけたり討論ができたりと、充実していたから。

②しなくてもよい
●意志のある人が集まることに意義があると思う
●全てのコースに通ずるものならば授業化も有りであるが、偏りがあるのならば、好みのもの取れるようにした方がよいと思う。
●他学部や院生は随時の方が参加しやすい時もある。
●教員志望ではない学生も参加することになるため、途中でだらけてしまう人も出てきて、失礼になるのではないかと考えるから。
●授業になると人数が多すぎる。
●授業化にするよりも、自主的に意欲のある参加者と集った方が活発な討論が行えると考えるから。
●続けてほしいが、授業になると毎回参加できるか分からない。

○どうような内容であれば積極的に受講しようと思いますか。
●実習の前後でアンケートを取り、内容を決めていくもの。
●授業づくり（楽しい授業づくり含む）。
●生徒指導について（高校の視点から）。
●たくさん話し合いたい。
●その時代にある様々な教育的問題について、考え、学ぶような内容。
●実際の先生の授業をうける（模擬授業）。
●授業を面白くするためのアイデアを盛り込んだもの。
●小学～高校まで幅広くとりあげて欲しい。
●良い面のみならず、悪い面も触れる内容。
●毎回、学生の関心を引くような内容であれば、積極的に参加する。

●教師に求められる資質や課題についてグループ討議等を通して話し合える機会があればよいのではないかと思う。
●実習と照らし合わせたもの。
●学部の勉強だけでは分からない、現場の声や意見が反映されたもの。

○教員になるにあたって何か不安に思うことはありますか。
●生徒指導が苦手で、自身の身振りにも問題がある。
●問題行動に対して、き然として振る舞えるか。
●仕事の多忙さ。
●複雑なトラブルへの対応。
●信頼関係の構築。
●保護者対応。
●自分がこうありたいというのがはっきりしない。
●うまく学級経営ができるのか。
●自分は教師として子どもたちを導くことができるのか。

○現在、現職の教員・校長、教育委員会の方に講師をお願いしていますが、その他にどのような方を講師として希望しますか。
●行政や福祉から教育をサポートして下さっている方。
●児童養護施設の方にも可能であればお話をきいてみたい。
●高校の先生にも来てほしい。
●先生をやめた人。
●保護者（PTAの保護者含む）
●社会教育関係の人
●1度社会人を経験して、教師になられた方
●養護の先生から見た学級、子ども、先生の姿があると思うので、養護の先生のお話も聴いてみたい。
●企業や塾の先生もおもしろい。

○その他授業化にあたっての要望があれば自由に書いてください。
●小向け、中向け、等、分かれていたら取りやすいのかなと思う。
●是非、全学教職に入れて欲しい。その際様々な校種に対応した講座を受けたい。
●必修にすればいいと思う。座学が多すぎる。
●異学年でグループの話し合いができたらいいのではないかと思う。
●毎週講師を呼べるのか？